

「話すこと・聞くこと」領域における授業実践例

- ① 学年・単元名 第2学年「あったらいいな、こんなもの」
- ② 単元のねらい ○丁寧な言葉と普通の言葉との違いなど、発表に適した話し方に気を付けて使うことができる。
○話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつことができる。
- ③ 指導の工夫と活用したツール
学習指導要領第1学年及び第2学年〔思考力、判断力、表現力〕A話すこと・聞くこと（ウ）には、「伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫すること。」とある。
本学級の児童の実態として、発表の際、発表メモを見たまま話をしたり、小さな声で速く話したりする児童が多い。また、普段の会話のようになってしまい、丁寧な言葉を用いて話すことができていない実態もみられる。これらは、自分の話し方を客観的に捉えることができないことや、相手意識を十分に持つことができないことが一因と考えた。
そこで、発表練習の際にタブレットのカメラ機能を使い、自分の発表の様子を動画で撮影し、その動画を見ながら自己評価を行う実践をした。それにより低学年の児童でも自分の話し方を客観的に捉えることができ、聞き手の立場で自分の話し方を聞くことができた。さらに、撮影した動画を Teams の課題提出機能を活用し、提出することで、一人一人の実態の見届けを行った。
- ④ 実践内容

本時の目標	
発表の手本を見て発表のよさを考える活動を通して、発表における話し方の違いに気付くことができ、自分の発表に生かそうとすることができる。	
本時の展開(6/8)	
	学習活動
導入	1 前時の学習を振り返る。 ・ぼくは、空を自由に飛ぶ羽があったらいいなと思うな。 ・友達に質問をされて、名前が決まっていなかったけど、決まったよ。
	2 本時の課題を確かめる。
展開	よいはっぴょうのしかたを考え、はっぴょうのれんしゅうをしよう。
	3 発表のお手本を見て、よい発表の仕方を考える。 ・絵をしっかりと見せていて、聞く人にも分かりやすく話していたよ。 ・大きな声でゆっくり話していたから、聞き取りやすいよ。 ・「です」「ます。」のていねいな話し方をしていたよ。発表の時は、いろいろな人が聞くから、ていねいな話し方の方が合っているね。 ・絵を指でさしながら話すと、どこについて話しているのかよく分かっていいなと思ったよ。
終末	4 発表メモをもとに、発表の練習をする。
	5 本時の学習を振り返る。 ・初めは話すのがはやくなっていて聞き取りづらかったけど、練習をしていくうちに、ゆっくり話すことができるようになったよ。次の発表会では、みんなが聞きやすいようにゆっくりと話すようにしたいな。
	指導・援助
	・学習の進め方を掲示しておくことで、学習の見通しをもち、本時は発表の前の練習の時間であることを児童が理解できるようにする。
	・「○○すると、どうしていいの。」と問い返すことで、その話し方のよさに気付くことができるようにする。
	・発表練習で活用できるよう、児童から出た意見を「発表のときの大切」としてまとめていく。
	・「発表のときの大切」をたしかめ、自己評価することで、よりよい発表になるよう意識することができるようにする。その際、発表の様子を動画で撮り、振り返ることで、自分の発表を客観的に振り返ることができるようにする。(ICT機器の活用)
	【評価規準】 発表における話し方の違いに気付く、自分の発表に生かそうとすることができる。

タブレット端末のカメラ機能で、発表の様子を個人で動画撮影した。撮影した動画を再生しながら、自己評価表に記入することで、自分の話す様子をじっくりと確かめるようにした。

学習後、撮影した動画を Teams で教師に提出することで、一人一人の見届けの一つの手段とした。

⑤ 成果と課題（実践するときの留意点など）

- 自分の話す様子を動画で見ることで、自分の話す様子を客観的にとらえることができるとともに、繰り返し動画を視聴することで、よいところや直すところを自分の力で見つけ、振り返ることができた。
- 話すこと・聞くことの学習は教師が一人一人の見届けや評価がしづらいが、動画を教師に提出することで、見届けの一つの手立てとすることもできる。
- △動画を撮ることが目的になってしまい、自分の発表をよりよくするという意識が低い児童がいたので、日常的にタブレットを多く活用し、タブレットは学習をよりよくするための道具であるという認識をもたせる必要があると感じた。